



CLOSE UP

ひとの*ちから

助産師 寺田恵子 さん

助産師の寺田恵子さんは、荒尾市出身。現在はお住まいの柳川市で助産院を開き、柳川市の「赤ちゃんサロン」や筑後市の「おっぱい教室」、周辺地域などでの子育て支援に携わっています。

「小学校・中学校では、ずっと学級委員や生徒会役員をしていました。その頃から人のお世話をするのが大好きで、使命感が強いんですよ」と寺田さんは笑顔で話します。世話好きと人を助けたいという思いがから助産師になり、これまで多くの命の誕生に向き合ってきました。

仕事に強くやりがいを感じた寺田さんは、次に母乳育児を学び、そのための乳房ケア（BSケア）を考案。今では地域での活動を続けながら、BSケアの講習会で全国を飛び回っています。

そんな活動の最中、佐世保で小学生による同級生の殺害事件が起こりました。これをきっかけに寺田さんは「命が生まれる現場にいる私が、命の大切さを伝えなければ」と立ち上がります。

それが「いのちの授業」。お産の再現劇と講話で構成されているこの授業は、テレ

てらだ けいて ●1960年生まれ、打越出身、柳川市在住。めぐみ助産院管理者。自ら考案したBSケアの講習で全国を飛び回る傍ら、地域での子育て支援や子どもたちに命の大切さを伝える「いのちの授業」を実施している。近著に「いのちの授業」(学研パブリッシング)がある。

でも取り上げられ、反響を呼んでいます。子どもには命が生まれる大変さと産んでくれた保護者の思いを伝え、保護者には出産の追体験から子どもへの愛情を再確認してもらいます。そしてそれらを通じて、命の尊さと一人一人の存在の大切さを伝えていくのです。

「いろいろな体験をしました。だからこそ今、地域や学校での活動につながっています。体験はすべて生きています」という寺田さんは、仕事の傍らで自らも出産と育児を経験。その中で、わが子を失う体験もしました。「いのちの授業」では、寺田さんの子育ての体験も伝えられています。

この日訪ねた母乳育児の勉強会。身体を軽く動かしてリラクセスした参加者一人一人に、寺田さんは今の困りごとを聞き、答えていきます。

「やれているだけでいいのよ。がんばってるよ」「いつも良いお母さんではいられないけど、ここで反省すればいいよね」親子双方の頑張りを認め、それぞれの家庭の状況を踏まえた助言で励まします。言葉の端々に、たくさんの命を見守ってきた寺田さんの優しさがにじんでいます。

最後に、荒尾への思いを訊ねました。「生まれ育った場所ですから、思いはひとしおです」と寺田さん。

「いくつになっても、生まれた場所は大切な故郷です。荒尾で生まれてよかった、と思えるまちになってほしいですね」ふるさと・荒尾へ、温かいエールをいただきます。



1



2



3

1 心と身体をほぐす軽い運動で、まず癒しを感じて勉強会を始めます。

2 赤ちゃんとお母さんに声を掛けながら、優しくマッサージでコミュニケーション。

3 この日参加した皆さん。荒尾市や長洲町、大牟田市などから、寺田さんのアドバイスを求めて親子が集まりました。